

飯田蛇笏「死火山の膚つめたくて草いちご」軸装
飯田蛇笏「夏旅や温泉山出てきく日雷」短冊
飯田蛇笏「河童に梅天の亡龍之介」短冊
飯田蛇笏「山ふかき飛瀑をのぼる大揚羽」色紙
飯田蛇笏「陽を擁くはアトサヌプリの梅雨の雲」短冊
飯田蛇笏「桔梗や又雨返す峠口」軸装
飯田蛇笏「鐵のあきの風鈴鳴りにけり」軸装
飯田蛇笏「ほけし絮の又離るゝよ山すゝき」短冊
飯田蛇笏「閑かさはあきつのくゝる木むら哉」短冊
飯田蛇笏「山吹の落葉し尽す露の川」色紙
飯田蛇笏「落月を踏む尉いでし神楽哉」軸装
飯田蛇笏「ふゆ瀧のきけば相つぐこだま哉」軸装
飯田蛇笏「雪山の暮るゝゆとりに鳴る瀬かな」短冊
飯田蛇笏「ふゆに入る真夜中あらし月の雨」軸装
飯田蛇笏「夜半さめて白魔をよめば雪のこゑ」短冊
飯田蛇笏「神は地上におはし給はず冬の虹」短冊
室生犀星 飯田蛇笏宛書簡 1932（昭和7）年12月28日

写真パネル 早稲田大学時代の蛇笏

「ホトトギス」第12巻第1号 1908（明治41）年10月「俳諧散心号」〈複製〉
「国民新聞」切り抜き
飯田蛇笏「いもの露連山影を正しうす」句額 1914（大正3）年〈複製：原本 個人蔵〉
「ホトトギス」1914（大正3）年11月「芋の露」巻頭号〈パネル〉
「ホトトギス」雑詠欄投稿句稿〈複製〉原本 天理大学附属天理図書館蔵
「キララ」創刊号 1915（大正4）年5月〈複製：原本 東京都近代文学博物館蔵〉
「キララ」第2号 1915（大正4）年6月〈複製：原本 東京都近代文学博物館蔵〉
飯田蛇笏「魂のたとへばあきの蛸かな」額装 1927（昭和2）年〈複製〉
写真パネル 家族と庭前で 1917（大正6）年撮影
飯田蛇笏『山廬集』1932（昭和7）年12月 雲母社 装幀 川端龍子
飯田蛇笏『山廬集』序文原稿〈複製〉

前田普羅「山桃の日かげと知らで通りけり」短冊
前田普羅「色かへて夕となりぬ冬の山」短冊〈複製〉
村上鬼城「瘦馬のあはれ機嫌や秋高し」短冊
村上鬼城「花ちるや耳ふつて馬のおとなしき」色紙
原石鼎「満ちしほにすでに灯つらね川開」短冊
原石鼎「爐ひらいて人をたゝへん心哉」短冊
渡辺水巴「何の木か梢そろへけり明の春」短冊
渡辺水巴「秋風やつくゑの上の小人形」短冊

飯田蛇笏『穢土寂光』1936（昭和11）年12月 野田書房
飯田蛇笏『靈芝』1937（昭和12）年6月 改造社
飯田蛇笏『山響集』1940（昭和15）年10月 河出書房
飯田蛇笏『白嶽』1943（昭和18）年2月 起山房 装幀 落谷虹兒
飯田蛇笏『春蘭』1947（昭和22）年7月 改造社 装幀 木村莊八
飯田蛇笏『心像』1947（昭和22）年11月 靖文社
飯田蛇笏「心像」句稿 1943（昭和18）年部分〈複製〉
写真パネル 飯田龍太撮影 炉辺の蛇笏 1956（昭和31）年1月撮影
「雲母」復刊号 1946（昭和21）年3月
飯田蛇笏句集『雪峽』句稿〈複製〉
飯田蛇笏『雪峽』1951（昭和26）年12月 創元社

飯田蛇笏「おく霜を照る日静かに忘れけり」軸装 1953（昭和28）年〈複製：原本 個人蔵〉
飯田蛇笏「御魂祭折から月の上るなり」短冊 1961（昭和36）年〈複製：原本 個人蔵〉
飯田蛇笏『家郷の霧』1956（昭和31）年11月 角川書店
写真パネル 1958年4月8日、門前を歩く蛇笏と龍太・小林富司夫 撮影 若林賢明
「雲母」1962（昭和37）年10月 蛇笏遺句「山月」掲載
「雲母」1962（昭和37）年11月号 龍太「山廬永別」掲載
「雲母」飯田蛇笏特集号 1963（昭和38）年3・4月
飯田蛇笏『椿花集』1966（昭和41）年5月 角川書店
高浜虚子「山廬」扁額〈複製〉
遺品 落款印・印譜

西島麥南「葉桜に風雨の蝶をみたりけり」短冊
西島麥南「菊活くる水絨毯にまろびけり」短冊
石原舟月「大沼に雲霧こめて獵期きぬ」短冊
石原舟月「秋の風かまつかの炎をはなれては」短冊
宮武寒々「水迅き宇陀の斑雪に雉撃たる」短冊
宮武寒々「すぐろ野を来し姪の靴大人びぬ」短冊
宮武寒々「霊場夜半女人浴みぬほととぎす」短冊
中川宋淵「媼が手に摘まれて草の萌ゆるなり」短冊
中川宋淵「梅の実の子と露の子と生れ合う」短冊
松村蒼石「雨蛙聞く花萼蔭に手をおひて」短冊
松村蒼石「枯々てやすらぎの葦芽くむなり」短冊
高室呉龍「初蝶やたかゝらねどもひるがへる」短冊
高室呉龍「竹藪のすこしそよげど夏霞」短冊
高室呉龍「石垣のきはの落葉に火をつける」短冊
高橋淡路女「白酒に酔ひしにやあらんたのしかり」短冊
高橋淡路女「走馬燈こゝろに人をまつ夜かな」短冊
柴田白葉女「陸奥の海くらく濤たち春祭」短冊
柴田白葉女「露の夜の昂ぶる髪を梳き乱す」短冊
柴田白葉女「山の雨やみ冬椿濃かりけり」短冊

山梨県立博物館「すごすぎる！ねこ展」（7/13～9/2）開催連携企画“俳句雑誌「雲母」と猫”

「雲母」1942（昭和17）年1月・1954（昭和29）年1月
飯田蛇笏 高室呉龍宛葉書 1936（昭和11）年5月15日・12月9日
飯田龍太「黒猫の子のぞろぞろと月夜かな」色紙
長谷川朝風「新涼の鈴をたまはる猫の胸」短冊
長谷川朝風「或る時は眼を燐光にかまど猫」短冊
長谷川朝風「凍土にふれまじと鶏歩き出す」色紙

【飯田龍太】

飯田龍太「紺緋春月おもく出でしかな」軸装
飯田龍太「春暁の竹筒にある筆二本」額装
飯田龍太「あつき湯に水さす春の夕餉どき」色紙
飯田龍太「あるときはおたまじやくしが雲の中」軸装
飯田龍太「なにはともあれ山に雨山は春」扇面額装〈複製〉
飯田龍太「なにはともあれ山に雨山は春」原稿
飯田龍太「千里より一里が遠き春の闇」色紙
飯田龍太「旅・歳時記（4月）」「旅・歳時記（5月）」原稿
寄せ書き色紙 1958（昭和33）年5月8日 蛇笏「炉語りや五月八日の夜の情」ほか
飯田龍太「夕焼けて夏山おのが場にそびゆ」軸装

飯田龍太「どの子にも涼しく風の吹く日かな」軸装
飯田龍太「ゆく夏のいく山越えて夕日去る」短冊
吉岡堅二画 飯田龍太賛「かたつむり甲斐も信濃も雨の中」額装
飯田龍太「遠くまで諸葉のそよぐ夏景色」軸装
飯田龍太「山起伏して乱れなき大暑かな」色紙
飯田龍太「闇よりも山大いなる晩夏かな」原稿
飯田龍太「『雲母』の終刊について」原稿（コピー）

飯田龍太「つばめ去る鶏鳴もまた糸のごと」軸装
飯田龍太「わが息のわが身に通ひ渡鳥」色紙
飯田龍太「茸にはへばつつましき故郷あり」色紙
飯田龍太「去るものは去りまた充ちて秋の空」軸装
飯田龍太 句集『山の木』草稿
飯田龍太「露深し不意にめでたき空のいろ」色紙
飯田龍太「碑のことなど」原稿
飯田龍太「大寒の一戸もかくれなき故郷」色紙
飯田龍太「紙ひとり燃ゆ忘年の山平ら」軸装
飯田龍太「雪の日暮れはいくたびも読む文のごとし」軸装
飯田龍太「冬の雲生後三日の仔牛立つ」色紙
のむら清六「山廬埋火」軸装
飯田龍太「後山の記」原稿
飯田龍太「村住みの余慶」原稿
飯田龍太「俳句のたのしみ」原稿

写真パネル 甲府中学5年 1937（昭和12）年頃
写真パネル『百戸の谿』口絵写真
「雲母」1951（昭和26）年6月「紺緋」巻頭号
飯田龍太『百戸の谿』1954（昭和29）年8月 書林新甲島
飯田龍太『童眸』1959（昭和34）年3月 角川書店
飯田龍太『麓の人』1965（昭和40）年11月 雲母社 雲母叢書第29篇
飯田龍太『忘音』1968（昭和43）年11月 牧羊社「現代俳句十五人集」第1巻
飯田龍太「一月の川一月の谷の中」軸装 1969（昭和44）年〈複製〉
「俳句」1969（昭和44）年2月号「明るい谷間」掲載
写真パネル 山廬裏手の竹林にて 昭和30年代後半 撮影 若林賢明
飯田龍太『春の道』1971（昭和46）年10月 牧羊社
飯田龍太旧蔵釣り竿・釣り道具
写真パネル 山廬庭前にて 撮影 齊藤勝久 提供 角川学芸出版
飯田龍太『山の木』1975（昭和50）年4月30日 立風書房
飯田龍太『涼夜』1977（昭和52）年9月 五月書房和装本シリーズの1巻、限定400部
飯田龍太『今昔』1981（昭和56）年11月 立風書房 題簽 飯田龍太 篆刻 寺西健 装丁 前川直
飯田龍太『山の影』1985（昭和60）年7月 立風書房 題字 飯田龍太 装丁 前川直
飯田龍太使用の落款印
飯田龍太印譜
飯田龍太『遅速』1991（平成3）年12月 立風書房 装幀 菊地信義
「雲母」終刊号 1992（平成4）年8月
『新編雲母句集』1992（平成4）年10月10日
飯田龍太『無数の目』1972（昭和47）年11月 角川書店
飯田龍太『紺の記憶』1994（平成6）年7月 角川書店 装画 船越保武
飯田龍太『遠い日のこと』1997（平成9）年6月 角川書店 装画 萩原英雄
飯田龍太愛用カメラ 二眼レフ（ミノルタ）
写真パネル 小黒坂の風景（村の女性・狐川上流）撮影 飯田龍太
愛用のパナマ帽

第5室 山梨出身・ゆかりの作家と作品

前期展示49名 4月27日(土)～9月1日(日)

【ジャーナリズム】

徳富蘇峰

徳富蘇峰『烟霞勝遊記』上・下 1924(大正13)年 民友社
徳富蘇峰「推倒一世王智勇開拓萬古之心胸」軸装
藤谷みさを『蘇峰先生の人間像』1958(昭和33)年1月 明玄書房

池辺三山

池辺三山「新聞記者の地位」『山梨日日新聞』1888(明治21)年1月12日(パネル)

川合信水

川合信水『吾が体験の道』1925(大正14)年9月 生々社

石橋湛山

『石橋湛山写真譜』1973(昭和48)年3月 東洋経済新報社

廣瀬千香

廣瀬千香『思ひ出雑多帖』1990(平成2)年7月 日本古書通信社
廣瀬千香「箸もつ筆もつたまさか針も」色紙
廣瀬千香『山中共古ノート』第1～3集 1973(昭和48)年6月～

川合仁

川合澄男『回想・川合仁』1975(昭和50)年4月 川合仁刊行会

望月百合子

望月百合子『大陸に生きる』1941(昭和16)年5月 大和書店
中村星湖筆「望月百合子女史の歌集」色紙
矢崎千代二画「望月百合子肖像」

雨宮庸蔵

雨宮庸蔵『偲ぶ草』1988(昭和63)年11月 中央公論社
谷崎潤一郎「いしだんをかぞへて登る乙女子の袖のちりくるやまさくらかな」色紙
十一谷義三郎 雨宮庸蔵宛書簡 1933(昭和8)年8月(年月推定) 日不明

竹中労

竹中労ほか「夢よ少年懐古浅草の灯よチャンバラ時よ」色紙
竹中労『ザ・ビートルズレポート』1982(昭和57)年6月 白夜叢書
竹中労『無頼と荊冠』1973(昭和48)年9月 三笠書房

【小説・評論・随筆・翻訳ほか】

相田隆太郎

相田隆太郎「武田信玄」原稿
相田隆太郎『テクノクラシイ』1933(昭和8)年4月 新潮社

和田芳恵

和田芳恵『接木の台』1974（昭和49）年9月 河出書房新社
和田芳恵「蓬生日記（一葉日記）」原稿

山田多賀市

山田多賀市『耕土』1940（昭和15）年3月 大観堂書店
「農民文学」創刊号 1951（昭和26）年9月 農民文化協会

新田次郎

新田次郎「富士と私」原稿
新田次郎『強力伝』1956（昭和31）年2月再版 朋文堂
新田次郎と上野晴信写真パネル

石原文雄

石原文雄『断崖の村』1946（昭和21）年7月 高須書房
石原文雄「猫図」色紙

藤巻宜城

「映象」第1輯 1925（大正14）年4月
「中央線」創刊号 1968（昭和43）年3月

中村鬼十郎

中村鬼十郎「慟哭の川」草稿
中村鬼十郎『慟哭の川』1976（昭和51）年10月 甲陽書房

熊王徳平

熊王徳平『無名作家の手記』1957（昭和32）年12月 講談社
熊王徳平『甲州商人』1958（昭和33）年9月 五月書房
熊王徳平「美るはしく生きたい希い鳥雲に」色紙

加賀美実

加賀美実『昭和初年の青春』1967（昭和42）年6月 福岡書房

小林実

小林実「皇居外苑」原稿
小林実『白い太陽』第一部・第二部 1961（昭和36）年3月 東京信友社
峡日文芸社主催「山梨文芸座談会」写真パネル 1935（昭和10）年7月14日

鳴山草平

鳴山草平『カミナリ先生青春帖』1960（昭和35）年1月 同人社
鳴山草平「カミナリ（先生）青春帖 第六話一緑の吹く風の章」草稿
鳴山草平「甲府市の自宅で」写真パネル 1937（昭和12）年春

羽中田誠

野間仁根『酔いどれ記者』挿絵原画
羽中田誠『酔いどれ記者』1953（昭和28）年12月 鱒書房

保坂義照

保坂義照『武田二十四将論』1944（昭和19）年2月 アジア青年社

小川正子

小川正子『小島の春』1939（昭和14）年4月改版 長崎書店

金子文子

金子文子『何が私をかうさせたか』1931（昭和6）年7月 春秋社

大町桂月

大町桂月「夜をこめて落葉に雨のかゝりけり」短冊

野尻抱影

野尻抱影 小尾孝平宛葉書 1910（明治43）年5月19日（複製）

山口誓子・野尻抱影『星恋』1946（昭和21）年6月 鎌倉書房

平賀文男

平賀文男『日本南アルプス』1929（昭和4）年6月 博文館

寺田重雄

寺田重雄『甲州魚風土記』1980（昭和55）年12月 芸文社

芦澤一洋

芦澤一洋『自然とつきあう五十章』1979（昭和54）年6月 森林書房

芦澤一洋『アーヴィングを読んだ日』1994（平成6）年11月 小沢書店

芦澤一洋「アメリカアイダホ州のヘンリーズフォークで」写真パネル

山中共古

山中共古『甲斐の落葉』1926（大正15）年11月 郷土研究社

土橋里木

南方熊楠 土橋里木宛葉書 1930（昭和5）年12月19日

大森義憲

大森義憲『甲州年中行事』1952（昭和27）年11月 山梨民俗の会

大森義憲「折口信夫と」写真パネル

中沢 厚

中沢厚『山梨県の道祖神』1973（昭和48）年5月 有峰書店

中沢厚『つぶて』1981（昭和56）年12月 法政大学出版局

浅川伯教

「白磁」創刊号 1922（大正11）年4月

浅川伯教『釜山窯と対州釜』1930（昭和5）年7月 彩壺会

浅川 巧

浅川巧『朝鮮の膳』1929（昭和4）年3月 工政会出版部

永峯秀樹

永峯秀樹『暴夜物語』第1編・第2編 1875（明治8）年2月、5月 山城屋

矢崎源九郎

矢崎源九郎訳『アンデルセン童話名作集』1955（昭和30）年3月 筑摩書房

【童話・童謡】

大村主計

大村主計「花かげ」色紙

大村主計『ばあやのお里』1932（昭和7）年1月 児童芸術社

大村主計『花かげ』1981（昭和56）年10月 大村秀子

大村主計童謡集『麥笛』1932（昭和7）年9月 児童芸術社

「楽しい童謡集」レコード盤 1959（昭和34）年 コロムビアレコード

米山愛紫

米山愛紫『春の停車場』1942（昭和17）年6月 文昭社

「チチノキ」第19冊 1935（昭和10）年5月

小野政方

小野政方『りんごののぞみ』1928（昭和3）年10月 研究社

太田黒克彦

太田黒克彦「マスの旅」原稿

山北しげり

山北しげり『小人の踊り』1936（昭和11）年11月 宏文堂書店

塩沢 清

塩沢清『ぼくもあの子も転校生』1987（笑話62）年8月 ポプラ社

塩沢清『愛犬パッキンはどこへいくの？』1992（平成4）年3月 旺文社

【戯曲・脚本】

小林一三

小林一三『歌劇十曲』1917（大正6）年10月 玄文社

小林一三 雨宮庸蔵宛葉書 1937（昭和12）年2月10日

「宝塚歌劇40周年記念」写真パネル

河野義博

中村吉蔵・河野義博『近代演劇史論』1921（大正10）年12月 日本評論社

「演劇」創刊号 1932（昭和7）年4月

「河野義博作品の舞台写真」写真パネル

大木直太郎

吉野源三郎 脚色 大木直太郎 脚色『君たちはどう生きるか』1978（昭和53）年5月9刷 未来社

菊島隆三

菊島隆三・黒沢明共同脚本「用心棒」第2稿台本

菊島隆三・黒沢明・小国英雄共同脚本「椿三十郎」台本

小柳津浩

小柳津浩『学校演劇論』1953（昭和28）年11月 甲陽書房

小柳津浩『青年演劇脚本集』1958（昭和33）年7月 甲陽書房

竹内勇太郎

竹内勇太郎「赤帽母ちゃん」原稿

竹内勇太郎『山本勘助』第1巻 1985（昭和60）年8月 学習研究社

後期 10月5日（土）～2月27日（木）

【詩】 20名

青柳瑞穂

青柳瑞穂『睡眠』1931（昭和6）年1月 第一書房

青柳瑞穂「ハへ撃ち」原稿

尾崎喜八

尾崎喜八『山の絵本』1935（昭和10）年7月 朋文堂 表紙 片山敏彦

尾崎喜八「遠い日の山小屋」原稿〈複製〉

金子光晴

金子光晴『落下傘』1948（昭和23）年4月 日本未来社

金子光晴「僕はゆく湖のながい汀にそうて」色紙

杉原邦太郎

杉原邦太郎『火山』1930（昭和5）年2月 機山閣書店

杉原邦太郎「昨日は靡く翠であった」色紙

「山脈」創刊号 1930（昭和5）年8月

内田義廣

内田義廣「街」原稿

内田義廣『花の群落』1976（昭和51）年4月 日本未来派の会

上野頼三郎

上野頼三郎『村の生活』1930（昭和5）年10月 村落社

上野頼三「あけぼの」詩稿

山口啓一

山口啓一『石炭と花』1930（昭和5）年5月 機山閣書店

中室員重

中室員重『兵隊詩集』1931（昭和6）年8月 海図社

米澤順子

米澤順子「額のある静物」油彩 昭和初期

米澤順子『聖水盤』1919（大正8）年11月 東京堂書房

米倉寿仁

米倉寿仁『透明ナ歲月』1937（昭和12）年4月 西東書林

「甲府派」創刊号 1954（昭和29）年11月

宮田柁夫

宮田柁夫『仮面』1954（昭和29）年10月 甲府派発行所

宮田柁夫「オパールの変転ルビーの紋章」色紙

曾根崎保太郎

曾根崎保太郎『灰色の体質』1954（昭和29）年11月 甲府派発行所
曾根崎保太郎「酩酊が抱くフェニックスの卵黄」色紙
「未踏」創刊号 1950（昭和25）年3月

野澤 一

野澤一「四十一歳三月三日夜作」未定稿
「童子行」1号 1937（昭和12）年5月

津嘉山一穂

津嘉山一穂「未刊詩集」草稿
「リアン」創刊号 1929（昭和4）年3月

鈴木久夫

鈴木久夫「断崖」原稿
鈴木久夫『断崖』1930（昭和5）年11月 民謡レビュー社

鈴木祐之

鈴木祐之『わたしのヒロシマ』1969（昭和44）年3月 甲陽書房
鈴木祐之「回生への祈り」原稿

小林富司夫

小林富司夫『きいろい炎』1949（昭和24）年5月 中部文学社
小林富司夫「うなばらに ふねのみちとてなかりけり 古歌 詩人不知」一枚物

土橋治重

土橋治重 詩集『花』1953（昭和28）年1月 日本未来派発行所
「風」129（終刊）号 土橋治重追悼号 1993（平成5）年12月
土橋治重「甲州の青い空には人事とかかわりなく白い雲が流れていた」色紙

中込純次

中込純次「詩集母と恋人」原稿「黄色いチューリップ」
中込純次『母と恋人』1929（昭和4）年1月 国風閣

一瀬 稔

一瀬稔 筆 のむら清六 画「裏山で」軸装
一瀬稔 詩集『山鶏』1940（昭和15）年10月 中部文学社

【短歌】 15名

伊藤生更

「美知思波」創刊号 1935（昭和10）年6月
伊藤生更『山雲』1953（昭和28）年10月 美知思波発行所
伊藤生更「北の方より駒鳳凰農鳥と我が目を移す雪の高山」軸装

中村美穂

「アララギ」第18巻第5号 1925（大正14）年5月
中村美穂『佛顔』1931（昭和6）年9月 みづがき社

相澤貫一

相澤貫一『石水集』1971（昭和46）年6月 発行人 古谷幸江

若尾隣平

若尾隣平『若尾隣平遺稿集』1971（昭和46）年1月 発行人 若尾朗
若尾隣平 歌帖「顕覆帖」

中大路佳郷

中大路佳郷「われ生れし虎年なれば病める身に渴を入れつつ初陽あみをり」短冊
中大路佳郷『華葩』1987（昭和62）年2月 須曾乃短歌会

伊藤映二

伊藤映二『揺籃時代』1926（昭和2）年10月 上田書店
伊藤映二「西行はどこら辺りで笠上げて見たであろうか赤い富士」色紙

飯野真澄

『飯野真澄歌集』1971（昭和46）年8月 白玉書房
飯野真澄「広き田の南寄りに黒牛は立ちて居るなり代掻を止めて」色紙

青木辰雄

青木辰雄「六階の食堂にゐてやややに茜うする時を過ぎしぬ」短冊
『青木辰雄歌集』1988（昭和63）年8月
「山梨歌人」創刊号 1946（昭和21）年8月

相澤 正

『相澤正歌集』1954（昭和29）年1月 白玉書房

許山茂隆

許山茂隆「髭しろきおきな誰そと眼凝らすにかゝみの面にうつるわか影」色紙
許山茂隆『郷園』1947（昭和22）年7月 国民文学社

鈴木 孝

鈴木孝『丘のある街』1966（昭和42）年10月 甲陽書房
「樹海」創刊号 1954（昭和29）年7月

佐野四郎

佐野四郎『杉の花粉』1934（昭和9）年7月 朝日書房
佐野四郎「日のゆふへ行きて耕さむおもひわくすくひの如き富士みゆる丘」軸装

渋谷 俊

渋谷俊『華鬘』1939（昭和14）年4月 柳正堂書店
与謝野晶子「序に代へて」歌稿（渋谷俊『華鬘』所収）

渋谷玻璃子

渋谷玻璃子『無礙の光』1929（昭和4）年12月 柳正堂書店

茂手木みさを

茂手木みさを『一隅の薔薇』1930（昭和5）年4月 朝日書房

【俳句】 13名

今村霞外

今村霞外『法燈』1954（昭和29）年8月 私家版
今村霞外「風雲を放ち切つたり雪の嶽」色紙

五味洒蝶

五味洒蝶『洒蝶句集』1964（昭和39）年9月 雲母社
五味洒蝶「寒曝をみる人まれに石叩」短冊

辻 露村

辻露村『樹影』1973（昭和48）年7月 雲母社
辻露村「冬の雲その白きゆえ弧なりけり」色紙

榎本虎山

榎本虎山『餘花』1972（昭和47）年1月 雲母社
榎本虎山「二月はや雲のごとくに何か消ゆ」短冊

角田雪弥

角田雪弥『畦火』1987（昭和62）年7月 竹頭書房
角田雪弥「月代の蛇籠をくぐる水の音」色紙

山田岫雲

山田岫雲『朴の花』1975（昭和50）年11月 発行 山田武雄
山田岫雲「冬雲に親子遠しや山畑」一枚物

柏木白雨

柏木白雨『白雨句集』1977（昭和52）年7月 若葉社
柏木白雨「新蕎麦会句会記」1942（昭和17）年8月22日

鈴木青処

山口青邨選「稿本青処句集」

堤俳一佳

堤俳一佳『俳一佳句集』1951（昭和26）年4月 裸子発行所
堤俳一佳「電話より文に情あり後の月」短冊

加賀美子麓

加賀美子麓『火度』1987（昭和62）年8月 牧羊社
「麓」創刊号 1990（平成2）年3月
加賀美子麓「川千鳥月より鳴いて落ちにけり」色紙

赤堀五百里

赤堀五百里『萬里』1995（平成7）年5月 読売・日本テレビ文化センター
赤堀五百里「踊りつゝ折々アイヌ月に吠ゆ」短冊

石原八束

石原八束『秋風琴』1955（昭和30）年8月 書肆ユリイカ 題簽 石原舟月
石原八束「死は春の空の渚に遊ぶべし」色紙
「秋」創刊号 1961（昭和36）年10月

新免一五坊

正岡子規 新免一五坊宛はがき 1899年10月1日消印

【川柳】 4名

篠原春雨

篠原春雨「こがらしやあとて芽をふけ川柳 初代川柳辞世句」色紙
『篠原春雨集』1953（昭和28）年5月 篠原春雨集刊行会

中沢春雨

中沢春雨「団十郎日本一の目玉なり」短冊
『騒愁 中沢春雨川柳句集』1967（昭和42）年11月 甲陽書房

雨宮八重夫

雨宮八重夫『遍路美知』1977（昭和52）年9月 サンケイ新聞社
雨宮八重夫「うからみな和し花よりも美しき」色紙

田中浮世亭

田中浮世亭「浮世亭句抄」

【漢詩】 3名

香川香南

香川香南『香南晩稿』1934（昭和9）年12月

村松蘆洲

村松蘆洲「送兒定孝之瑞西」漢詩色紙
村松蘆洲『蘆洲詩集』1980（昭和55）年5月 発行人 村松定孝

笠井南村

笠井南村 撰 土屋竹雨 評『翰墨縁』詩稿・印譜